



2010年9月12日発行

「赤レンガをいかす会」

# 赤レンガ通信

この通信は皆様のカンパ金で作成・送付しています。感謝！  
NO.3

〒272-0823 千葉県市川市東菅野 5-8-21-201(いちぶんネット内)

TEL047-339-7809 FAX047-339-7810 Eメール akarenga\_2010@yahoo.co.jp

## ご報告

暦では秋だというのにいつまでも続くこの暑さ、ほとんどの方が夏バテ状態でおられるのではないのでしょうか？皆様はいかがですか？

1 「赤レンガをいかす会」の夏季の活動をご報告します。

**土壌調査の結果発表**・・・が、間もなく公表される予定で、どのような数値が登場するか注目している所です。仮に土壌汚染度が高くても、汚染土壌を封じ込めて土地を利用するという考え方の法改正が4月にありました。これを利用すれば、既存建物をそのまま取り壊さずに耐震補強、一部減築して再利用する道が開けそうです。

**市川市議会議員との懇談会**・・・6月29日(火)、議員との懇談会を開きました。市会議員7名と県会議員2名の参加を得て、活発な議論が展開されました。皆さん赤レンガ建造物保存の意義を強調され、今後も情報交換を密にして、行政に対しての働きかけを協力していくことを確認しました。

**「登録文化財の学習会」**・・・7月19日(祝)に行いました。報告は後述します。

2 今後の方向性に関して展望を述べておきます。

**「市川芸術センター」グランドデザイン**・・・歴史的価値の高い赤レンガ建造のみの保存を訴えるばかりではなく、それをどのように有効保存するか、また旧血清研究所の建物が取り壊される前に、建物全体をどのように再生利用していくか、「平和・環境・文化」をテーマにしたグランドデザインを描く必要があります。

その一例として、西新宿にある廃校施設を利用して5年前に設立された芸能花伝舎が活発に活動していますが、そうした事例を研究しながら、国際交流を視野に入れたプロとアマチュアの芸術文化の活動・交流拠点を生み出していきたいものです。またデザイン・コンテストを始め、夢を描く活動を強めていく必要があるでしょう。

**「赤レンガ保存のためのリーフレット作成」**・・・市民の支援を拡大し行政への働きかけを強めるためにも、もっと大きな世論を作り出していかねばなりません。その宣伝材料として、誰もが簡単に理解できるリーフレットを作成する作業に入ります。また請願署名等市民の声を結集していく活動も進めることも必要でしょう。

会の運営委員の皆さんもそれぞれに多忙なため、迅速な活動を展開できずにいますが、時間的にはそう余裕があるわけではありません。少なくとも施設建物が取り壊される前に、県や市行政との話し合いの場を持ちたいものと思います。

(代表・吉原廣)

## 見学会のお知らせ1

### 慶応大日吉キャンパスの中の戦争遺跡・日吉台地下壕

昭和19年、太平洋戦争が熾烈となり、文部省の指示に従い慶應義塾では日吉第1校舎、寄宿舎等を海軍に貸与することとなった。日吉に移ってきた海軍の内訳は第1校舎には軍令部第3部、人事局、建設部隊等、寄宿舎は連合艦隊司令等がまず入り、後には海軍総隊司令部や航空本部等が移転して来て、海軍の最重要作戦の指令は日吉で決定されていた。移転直後から海軍は校

地の地下に堅固な地下壕を突貫工事で建設し、連合艦隊司令長官の指令は、実は日吉のアナグラの内から発せられたものであった。神風特攻隊が初めて出撃したレイテ作戦の命令も、日吉の地下壕から発せられたという。(慶應義塾 HP より)

- 日 時 2010年9月25日(土) 12時45分
  - 場 所 東急東横線 日吉駅 集合
  - 参加費 800円(資料・保険)
  - 申込〆切 9月21日午後6時厳守 先着15名様のみ。  
人員数超過の場合はお断りすることもあります。
  - 案内人 「日吉台地下壕保存の会」の方
- <申込要領> 参加希望の方は下記にお申し込みください
- 申込先 FAX 047-374-1755 または  
Eメール akarenga\_2010@yahoo.co.jp
- 記載事項 件名や標題には「日吉台地下壕見学会申込」  
お名前 年齢(保険加入のため) 電話 ファックス Eメール

(尾崎めぐみ)

## 見学会のお知らせ2 東京藝術大学赤レンガ1号館 11月実施予定

東京芸術大学(上野) 赤レンガ1号館(明治13年築)は現在の科学博物館の前身教育博物館の書庫として建てられたもので、隣接する赤レンガ2号館(明治19年築)とともに現存する数少ない明治期の赤レンガ造建築です。両者とも耐震補強され使用されていますが、内部見学は1号館のみです。

(高木彬夫)

### 赤レンガの会学習会<文化財指定の可能性を学ぶ>の報告 2010年7月19日・於 和洋女子大学

去7月19日の海の日、和洋女子大学を会場として、藤谷陽悦日本大学教授(近大建築史)による報告「千葉県における近代建築遺産の状況について」と、元文化庁の文化財鑑査官であった小山高専校長の刈谷勇雅による講演「文化財指定の可能性を学ぶ」のテーマで学習会を行いました。

文化財保全の分野では、埋蔵文化財が中心で、建造物ができる人は非常に少ない、埋蔵担当の方々に建造物をわからせる必要がある、という指摘には“目からうろこ”で、今後の作戦上、非常に参考になりました。また、赤レンガ倉庫の、建物価値の実証と再生・活用計画づくりが重要なポイントであることも。

これらを受けて、千葉県と市川市、国への働きかけ、それらを動かすための市民を巻き込んだ普及・運動が必要であることが、議論と共に指摘されました。

もやもやしていたことが、随分明快になり、向かうべき方向が示され、運動にとっても、とてもよい機会になりました。刈谷さんが千葉県民でしたことも幸運で、これからも相談にのって頂けることと思います。

詳細な報告は後日冊子で紹介致します。また、当日の資料となった、文化庁「国宝・重要文化財建造物」のパンフは以下からダウンロードできますので参考にして下さい。



[http://www.bunka.go.jp/bunkazai/pamphlet/pamphlet\\_ja.html](http://www.bunka.go.jp/bunkazai/pamphlet/pamphlet_ja.html)

(和洋女子大学 中島明子)